

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「木のぬくもりを感じる

中津川市ひと・まちテラス」



中津川市
ひと・まちテラス所長
安藤 嘉之

自己紹介

岐阜県中津川市にある「ひと・まちテラス」の所長をしています。

「ひと・まちテラス」は、かつて中山道中津川宿として栄えたこの地なかせんどうに、再び賑わいをもたらそうと、「ひと・まち・未来を元気にする交流と学びとにぎわいの拠点」を基本理念とし、「子育て支援」「市民交流」「学び

「観光」の機能を備えた複合施設です。

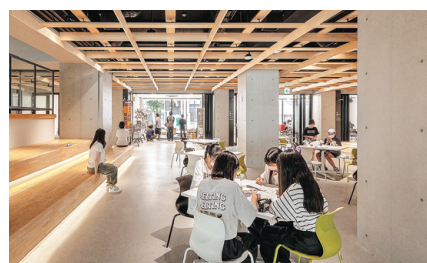
活動内容

多くの方に親しみを感ずる利用



ひと・まちテラスの外観

していたため、「木のぬくもりを感じる施設にしよう」ということになりました。そのため、木は、建物全体を木造建築にするのが一番いいのですが、まちなかの防火地域内であり、二階、三階の一部が図書館で十七万冊の蔵書があることなどから、火事に強く、ある程度の重量にも耐えられる鉄筋コンクリートにする必要があります。そこで、建物内部にふんだんに木を散りばめることにしました。一階天井には格子状に組んだ中津川産のヒノキが使っており、三階にも入口を作る関係上、天井の位置は高く取れません。そこでヒノキを格子状に組み、取って天井裏まで見せることで、建物に入ったときに圧迫感がないようにしました。中津川市は、昔から森林文化が盛ん



ヒノキを格子状に組んだ「見せる」天井

で、現在も良質な木材や木製品を生産・加工する人たちが多くいます。「東濃ヒノキ」としても知られる市内のヒノキを使うことで、「他にはない、中津川市の建物」という主張も入れました。一階から三階に続く階段は、クリを使用しています。中津川市は「栗きんとん」をはじめとする栗菓子で有名ですが、「栗は食べるだけでなく建築にも使えます」という意味が込められています。また、お客様の手に直接触れる、階段の手すり、部屋の出入口の取っ手などには、木曾五木きそごご(ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ)が使われています。それらには、お客様がよく見なければわからない場所に、使用した木の名前がこっそりと記されています。ソフト面でも、木や森林に関するイベントを行っており、一つは、「木のことを知る」というテーマで行うトークイベントです。毎回木や森林を生業にしている方をゲストに招き、木との出会い、木に携わる仕事の苦勞と喜び、木や森林の未来などについて語っていただき、YouTubeで発信しています。また、それを積み重ねていき、ゲストの方の想いや願い

をアーカイブとして保存していくことも行っています。もう一つが、木育のワークショップです。マイ箸づくり、桶作り、ヒノキボールすくい、木を使った昆虫標本作りなどの体験ワークショップを定期的に行っています。昨年七月十五日にオープンしてから一年が過ぎ、九月十一日現在五三万三四七四人の方にご利用いただいております。今後も「にぎわいの拠点」になるために、中山道の街道文化、市北部を中心とした森林文化を大切にしながら、さらに多くのお客様にお越しいただけるよう創意工夫を重ねてまいります。



ヒノキボールすくいに挑戦する子ども

連絡先

岐阜県中津川市新町二一三四
中津川市ひと・まちテラス



管内北限の天然ヒノキ林

かしま
鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

本保護林は、古くは木曾地方の天然ヒノキ、いわゆる木曾ヒノキの分布帯に連続していたものと考えられている、管内北限の天然ヒノキ林として希少な森林であることから、その遺伝資源の保護を目的として設定されています。

地況・林況

長野県大町市を流れる鹿島川左岸、標高一、二五〇㊦の尾根筋周辺の西斜面に位置しています。

分布するヒノキは、江戸時代後期に伐採した後に天然更新により再生したものと考えられています。ヒノキを主体とし、クロベ（ネズコ）やミズナラ、ブナ等が混交する、多雪地帯に特徴的な天然林が分布しています。

シリーズ

中部の保護林(第41回)

所在地
長野県大町市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第41回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

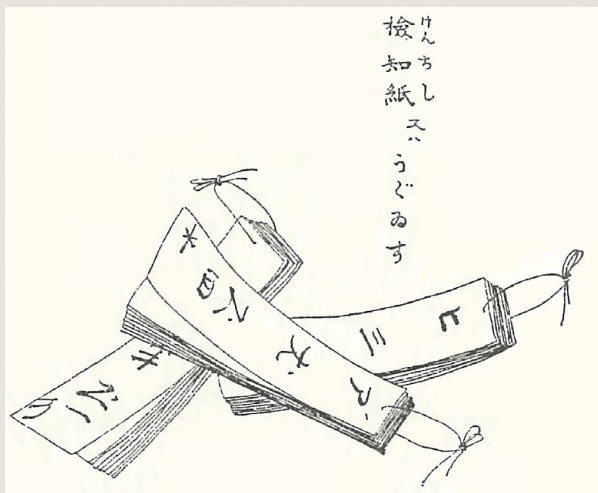
「裏木曾」その五 造材と検尺

伐採された木を丸太に加工するのが「造材」ですが、斧で伐採していた頃の木曾・裏木曾では木の皮を剥き丸太の両端を斧で削り丸め



昭和20年代頃、現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林での造材の様子

ることがしばしば行われました。この「すりこぎ」状に丸められた部分を「頭巾」と呼びます。これは斜面をおろす・川に流すなどの運材の際の木材の割れを軽減するためであったとされます。ただし、それだけ木材として使える部分が減る訳ですから、後の時代には行われなくなりました。皮も時代や樹種によって剥かない場合があります。



検知を記録する紙は
うぐいす・ウグイス帳などとも呼ばれた
(大正5年帝室林野管理局発行
「木曾御料林之造材運材」より)

造材された丸太はその本数、樹種、寸法等を確認・記録するため検尺(検知)を受けるこ

とになります。検尺は代人(旦那)と呼ばれるまとめ役・指導員を中心に行います。伐木造材した出来高で賃金が左右された時代でしたので検尺は厳格さを要求されるものでした。

検尺の際には代人と「驚採り」とも呼ばれる記帳役、実際にその山で作業した柚(伐採夫)数人が立会います。代人が丸太を一本ごとに調べるたびに大きな声で呼び上げ、これを記帳役が復唱し「うぐいす」とも呼ばれた検知紙に記帳します。この大きな声で呼び上げ、復唱する声が山々にこだまする検尺の風景から「うぐいす」という言葉が出てきたとも言われています。



切判を掘るノミの時代による変遷
(「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より)

大正時代初期頃の裏木曾での検尺のイメージ
（付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解より）



また検尺の際には「切判」と呼ばれる記号がノミで刻まれ、墨を入れられます。これはバラバラに川に流されるなどした後でも、いつでもどこから出材された丸太であるのか判別できるようにするためのものです。切判で刻まれるのは伐採した事業所、伐採年度、樹種、杣看板（どの杣の組が伐採したのかの印）といっ

た情報になります。例えば「クナ」は宮内省帝室林野管理局の付知（中津川）出張所の木材であること、「ヒ」はヒノキ、「二」は大正二年の伐採であることを示しています。切判は江戸時代からある慣習でしたが、時代が経つに連れてインクを付けたハンマーで刻印を打つなどの作業に変わっていきます。

現代でも神宮（伊勢）の式年遷宮関連行事などにおいて、切判の流れをくむ印が御神木に刻まれることがあります。



昭和20年代頃、現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林にて切判を刻む風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。





日本三大山城の一つ 岩村城跡

岩村森林事務所は岐阜県恵那市の南東に位置する岩村町に在し、森林官、非常勤職員各一

【東濃森林管理署
岩村森林事務所】
首席森林官 安藤 達也

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。



岩村町内を走行する競技用車両

名で業務にあたっています。恵那市、瑞浪市内の国有林約五、〇三〇ヘクタールと、上矢作町、瑞浪市、多治見市、御嵩町内にある官行造林地約二九九ヘクタールを管轄しており、里山から奥山まで広範囲に

及んでいます。近隣には女城主の城として知られ、日本三大山城の一つと言われる「岩村城跡」があり、麓の城下町と共に毎年多くの観光客が訪れています。一昨年からは、FIA世界ラリー選手権WRCが愛知県豊田市と共に開催されており、世界の注目を集める地域でもあります。

当事務所ではこの時期、木材生産や植栽後の保育事業の監督、民有地との境界の確認、森林の調査などの各種業務で現場へ向かう日が続いています。

近年は主伐に伴う新植地が増えており、ニホンジカの生息数も増加していることから、獣害対策の検討や既設の防護柵の修繕も課題となっています。

管内の特筆すべき点としては、「真砂土」と呼ばれるもろく崩れやすい地質であることです。この地質を考慮したうえで、伐採とそれに伴う林道や作業道の利

用、植栽後の獣害対策用防護柵の設置などを進める必要があります。各現場に適した作業方法を模索する毎日です。



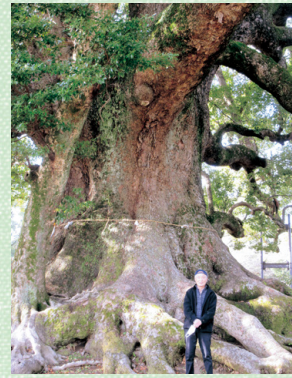
獣害防護柵を修理する職員

■未来の担い手へのメッセージ

近年は林業分野でも新しい技術の開発やIT化が進んでいますが、国有林への導入は一部にとどまっています。これからの新しい力で国民の森を整備し、守ってみませんか。



国有林モニターのご紹介



北村 憲一
(長野県)

◇自己PR(趣味・その他)

全国の巨樹巡りなど。

農業は一年で成果が得られるのに対し、林業は、「おじいさんのおかげで今があり、孫のために植林する」という長いスパンです。この言葉をときどき噛みしめながら農業で汗を流し、土を耕す日々です。

◇国有林モニターに応募した理由

長野県では、戦後、カラマツは成長が早く、土木用材としての需要が見込まれていたため、各地で盛んに植林されましたが、昭和五十年代に入ると、大量に間伐されたカラマツの利用が課題となりました。

当時、間伐材の使い道の検討に関わったことがありましたが、間伐したカラマツの小径材は、植林した当時には想定されていなかったヤニや割れ、ねじれが生じ、建築用材としては対応に苦慮したものでした。

そのカラマツが主伐の時期を迎えており、再び関心を持ちました。

◇国有林に期待すること

車で旅行をしていると、雑木林にポツンとある山桜に「ああ、山桜哉」と思わずつぶやいてしまいますが、一方で、手入れの行き届いた人工林の姿にも心を落ち着かせるものがあります。また、京都の北山杉や秋田の杉などの佇まいに出会ったときは、思いがけない旅行の喜びを感じることがあります。

国有林で行われる造林や保育作業なども、素晴らしい景観づくりに寄与してくれればいいなと思っております。

(写真：熊本市「寂心さんの樟」にて)

「なかつがわ森の木遊館」

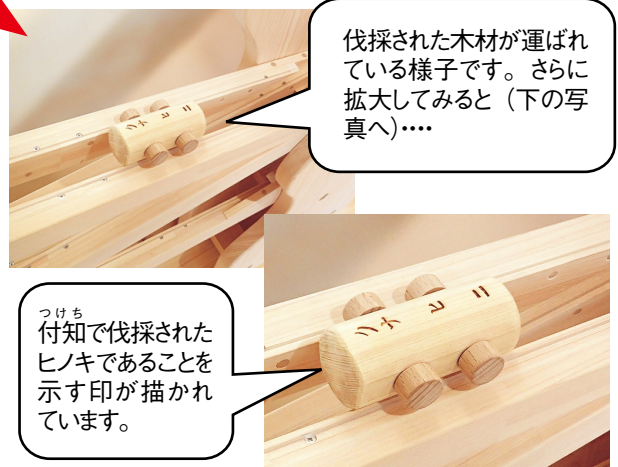
4ページで紹介した「なかつがわ森の木遊館」は、内装に市内で伐採されたスギやヒノキが使われています。施設内には「かつて裏木曾の山から木材を運び出していた森林鉄道」をイメージした地域色豊かなおもちゃもあります(左写真)。

また、市独自の森林文化や暮らしなどのテーマごとにエリアが分けられていて、子どもから大人まで幅広い年代の方が木に触れ、親しむことができる施設となっています。



よく見ると何が乗っています。(右下へ)

伐採された木材が運ばれている様子です。さらに拡大してみると(下の写真へ)...



つけち付知で伐採されたヒノキであることを示す印が描かれています。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

♪夕焼け 小焼けの赤とんぼ〜♪秋の高く澄み切った青空、黄金色の稲穂が風に揺れる田んぼ、その周りを縁どるように畔に咲く彼岸花、稲穂の上を飛び交う多くの赤とんぼ。

まさに「日本の原風景」と勝手に思っていますが、実際に子どもの頃から見ていた景色です。赤くなっていないオレンジ色のとんぼを祖母は「まだ熟れてない」と表現しました。

夏の期間、標高の高い場所で過ごすアキアカネは、涼しくなる頃に赤みを増して一斉に里まで降りてくるようですが、今年はいつになるでしょう。みなさまはすでに出会いましたか。群れを成して飛ぶ「熟れたとんぼ」に。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

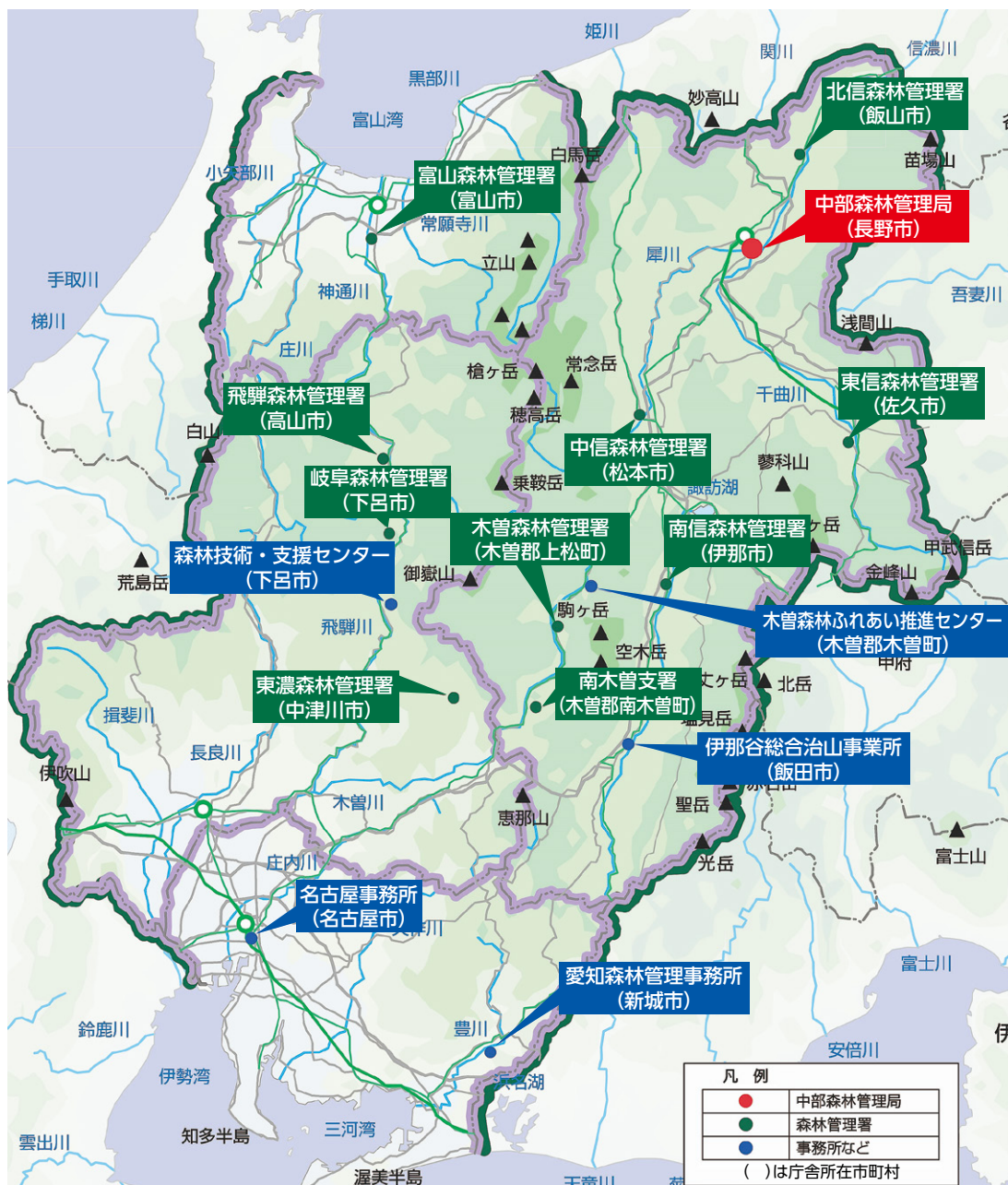


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。